



平和のための戦争展・流山 第一回成功裡に終わる

9月2日～4日の日程で、流山市生涯学習センターで「第1回平和のための戦争展・流山」が開催されました。

初日の2日には、新日本婦人の会流山支部



「梨の花」によって早乙女勝元著「東京大空襲」から早乙女氏自身の東京大空襲の体験を綴った部分が朗読されました。

続いて、旅行作家の山本鉦太郎さん、NPO法人野田文化研究会の武智多恵子さん、新日本婦人の会



の谷川光江さんの3人の方から、東京大空襲や大陸から

の引き揚げ体験などの戦争体験をお話いただきました。戦争体験を体験者から直接



を聞くのは初めてという方も多く、その壮絶な体験に感銘を受けると同時に、二度と戦争を起こしてはいけないという思いを新たにしたいという声が寄せられました。

中日の3日には、「平和の旅へ合唱団」によって、組曲「平和の旅へ」、「折鶴」、「群青」などの合唱曲が演じられました。最後に、「青い空」と「ケサラ」を来場者と一緒に合唱しました。続いて、子どもと教科書全国ネット21代表委員で憲法会議代表幹事でも



ある石山久男さんによって、「戦争はやめさせられる！」のタイトルで講演がありま



した。2015年の安保法制成立から岸田政権の軍事予算倍増までの急速に進む戦争準備の実態、政府の喧伝する台湾有事を含むアジアでの戦争の非現実性、戦争準備をしないことが戦争をやめさせられる道であることなど、ご高齢にもかかわらず大きな張りのある声で熱演いただきました。

上記と同時に、2日から4日まで、「戦争の記憶-平和への希望」のタイトルで展示会が催されました。



展示物は、①戦争の悲惨さを伝え

平和の大切さを描いた絵本や戦争関連の書籍43点、②原爆被害の実相を後世に伝え被爆体験を継承するために、2007年から広島平和記念資料館と広島市立基町高等学校が共同して制作している原爆絵図のうち23枚、③新日本婦人の



会所蔵の広島・長崎の原爆被災の写真パネル17枚、④出征兵士の父を見送る家族を描いた国語教材「一つの花」を題材に、流山市内で行った授業での子どもたちの発言や授業後の感想、⑤台湾有事の名のもとに米軍の軍備が拡張され、新たに自衛隊の基地が次々に作られている九州・沖縄の状況をしめす「現代の戦争パネル」、⑥東京大空襲を経験した山本鉦太郎さんが集めた、戦災を扱った著書、当時の手紙、掲載新聞、朝日グラフのヒロシマ原爆写真、放送台本、疎開写真、衣服・日用品など45点など。戦争の悲惨さを実感し、子どもたちに二度とこのような体験をさせてはならないという声がたくさん寄せられました。

映画『福田村事件』を ご覧になりましたか 日下部信雄



映画『福田村事件』が、この種のいわゆる硬い映画としては、かなりのヒットといつてよいだろう。

結論を先に言えば、観る価値のある映画である。監督の森達也さんは、2017年5月の「流山憲法集会」の講師としてお話を頂いた人でもある。

この「福田村事件」については、流山市立博物館友の会の研究誌「東葛流山研究」に当会会員でもある辻野弥生さんが報告を書き、さらには流山市内にあった書房出版から2013年に『福田村事件—関東大震災・知られざる悲劇』として本になっていた。

「流山憲法集会」の際に、辻野さんは森達也さんにこの本を贈呈しているとのこと。しかし、その後、書房が会社を閉じて絶版になってしまった。

映画『福田村事件』が作られることと軌を一にするように、辻野さんの著書が増補され、新たに五月書房新社から出版され（税別2000円）、さらに読み応えのある内容になり、資料的価値もさらに高まった。歴史を学ぶならこちらもぜひお読みいただきたい力作である（本のタイトルは同じ）。



この「福田村事件」（現在の野田市。しかし、現在柏市になっている福田村の隣の田中村の人々も加

害者なので「福田村・田中村事件」という方がよいとも言われている）は、今からちょうど100年前の1923年に発生した「関東大震災」の後に横浜や東京や千葉県でも起こったいわゆる「朝鮮人虐殺事件」の一つである（ただし「福田村事件」で殺されたのは日本人で、他にも日本人や中国人が殺された例はある。辻野さんの本にも資料が掲載されている）。映画は、劇映画として作られているので映画の中のエピソードは史実そのものではない。しかし、誰かが意図的に流した可能性が指摘されている（映画でもそれを示唆する場面も）流言蜚語にあおられて人々が各地で朝鮮人や中国人、そして日本人もいわれなく無残にも文字通り虐殺した史実が持っている大きな問題を提起している。一口で言えば「差別問題」である。そして客観的証拠もないままあおるような報道（当時はもちろんテレビもいわんやインターネットもないから「新聞」とラジオである）の問題などである。

最近でもインターネットなどによるヘイトスピーチなどのヘイトクライムが問題となっている。自民党の杉田水脈（みお）衆院議員によるアイヌ民族などへの差別的言動を法務省は人権侵害と認定した（9月7日）。日本国憲法を持つ国の市民としては「福田村事件」を単に昔こんなひどいことがあったとか、福田村で特殊に起こった不幸な事件とだけ考えてはならないことを学んでいきたい。

たとえば、流山市でも朝鮮人虐殺はあったのである。流山市立博物館発行の『流山市史研究』第8号（1991年）に山形紘氏の「流山を襲った地震」という論文が掲載されている。もちろん、辻野さんの本でも詳しく触れられている。また、阿部治正議員がこの9月の議会で「福田村事件」と流山市で起こった事件について井崎市長の認識を質問し、かなり踏み込んだ答弁を得ている。このやり取りは注目すべき内容である。現在、流山市議会のHPで視聴できる。

三上智恵監督・新作上映会

いくさば

『沖縄、再び戦場へ』

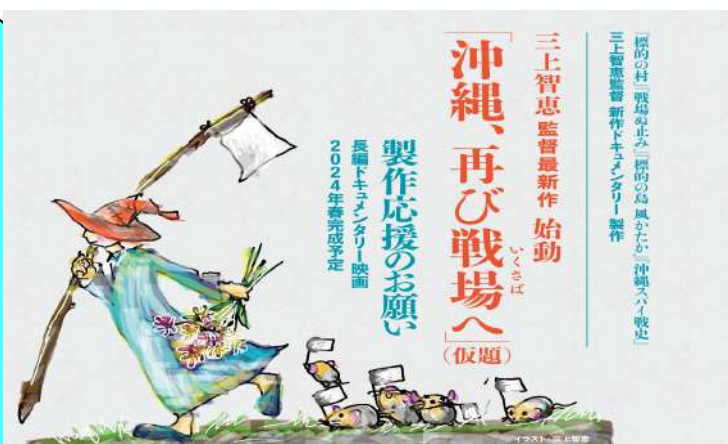
10月21日(土)

南流山センター

14時から45分

入場無料
カンパ歓迎

台湾有事を念頭に、沖縄を中心とした南西地域の自衛隊の部隊配備を手厚くし、最新設備への更新を図る「南西シフト」の現場。宮古島にミサイルが搬入され、与那国島では公道を「戦車」が走る。その傍らで「戦地にしたくない」と反対の声を絞り出す島民たち。急ピッチで進む南西諸島の戦争準備。実情を急いで皆さんに知っていただきたい、と計画しました。



「九条の会・流山」宣伝と署名

◆10月9日(月) 15:30

おおたかの森駅 自由通路

カンパはこちらの郵便振替口座へ

00130-5-464735 口座名 九条の会・流山